

RS ウイルス感染症について

RS ウイルスは例年、秋から流行が始まり、年末をピークに消退するのですが、今回は今現在も続いています。RS ウイルスは[ボルチモア分類](#)では第 5 群に属し 1 本の鋳型 RNA の遺伝子を持ち、A 型と B 型に分類される。RS ウイルス感染症は、RS ウイルスの感染による呼吸器の感染症です。広い意味での風邪の一種です。近年免疫クロマトグラフィー法などによりウイルス抗原を簡便に検出できるように診断がつくようになりました。

・ 咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、おもちゃ等）を触ったりしての接触感染で感染します。環境中では比較的弱いウイルスで、55° C 以上の加熱、界面活性剤、次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系消毒薬などで速やかに不活化されます。

通常 1 週間ほどの潜伏期間を経て発熱、鼻汁、咳嗽などの症状が数日続きます。多くは軽症で経過しますが、重くなる場合には、その後咳嗽・喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が出現し、場合によっては、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。感染によって重症化するリスクの高い基礎疾患を有するお子さんや、生後 3 か月未満の乳児への感染には特に注意が必要です。

確定診断には PCR 法による遺伝子検出か、免疫クロマトグラフィー法などによりウイルス抗原を検出する方法があります。

RS ウイルス感染症には特効薬はありません。治療は基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。

また、臨床応用されているワクチン也没有ありません。今から約 50 年前に不活化ワクチンが臨床試験されましたが、対照群の初感染時入院率が 2%だったのに対して、ワクチン接種群では 80%が入院し患児 2 名が死亡するという悲惨な結果に終わりました。¹⁾ 今回コロナワクチンで実用化された遺伝子ワクチン製法で RS ウイルスワクチンを開発すれば有望なワクチンとなる可能性があります。

その他の予防方法としては、遺伝子組換え技術を用いて作成されたモノクローナル抗体製剤を 1 か月ごとに筋肉注射することにより、予防する方法です。

- 1) Kapikian AZ, Mitchell RH, Chanock RM, et al : An epidemiologic study of altered clinical reactivity to respiratory syncytial (RS) virus infection in children previously vaccinated with an inactivated RS virus vaccine.

Am J Epidemiol 89 : 405-421, 1969